



令和8年9月2日

午前11時

日本遺産「みちのくGOLD浪漫」の追加認定を受けました

本市は岩手県住田町と共に、令和元年5月に日本遺産認定を受けた「みちのくGOLD浪漫」の新たな構成自治体としての追加を目指し、日本遺産の変更申請を行いました。

9月1日付けで、文化庁の審査を経て、日本遺産みちのくGOLD浪漫の構成自治体に本市と岩手県住田町が追加認定されました。

1. 日本遺産について

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁「日本遺産」として認定する制度で、平成26年度に創設されました。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形のさまざまな文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域活性化を図ることを目的としています。

2. 「みちのくGOLD浪漫」について

奈良時代に日本で初めて金を産出した宮城県涌谷町をはじめ、黄金文化が花開いた平泉など、国内屈指の産金地帯に築かれた独自の文化や信仰・産業の魅力を盛り込んだストーリーです。ストーリーは6つに細分されており、各ストーリーに関連するものが構成文化財となっています。

- (1) はじまりは一粒の「砂金」から
- (2) 皆金色の理想郷
- (3) 日本の「金」発祥の聖地
- (4) 金山採掘の栄枯盛衰
- (5) 日本のゴールドラッシュの一翼を担った近代鉱山
- (6) 花咲け「みちのくGOLD」浪漫

令和元年5月に日本遺産に認定され、構成市町は、宮城県涌谷町、気仙沼市、南三陸町、石巻市、岩手県平泉町、陸前高田市、大船渡市の7市町でした。今回、本市と住田町が加わり9市町となりました。

既存の主な構成文化財としては、氷上山（陸前高田市）、岩井崎（気仙沼市）、黄金山産金遺跡（涌谷町）、中尊寺金色堂（平泉町）、田束山経塚群（南三陸町・気仙沼市）、玉山金山遺跡（陸前高田市）、大谷鉱山跡（気仙沼市）、金華山道（石巻市）、今出山金山跡（大船渡市）などがあります。

3. 本市の構成文化財

別紙のとおり

4. 構成自治体

岩手県内（平泉町、陸前高田市、大船渡市、一関市、住田町）：5市町

宮城県内（気仙沼市、南三陸町、涌谷町、石巻市）：4市町

5. その他

追加認定に関する文化庁が発表した資料（抜粋）は、別紙のとおりです。

【問い合わせ先】

- ・観光に関すること

〒021-8501 岩手県一関市竹山町7番2号

商工観光部観光物産課 課長補佐兼観光物産係長 佐々木

電話：(0191)21-8413（ダイヤルイン）FAX：(0191)31-3037

メールアドレス：kanko@city.ichinoseki.iwate.jp

- ・文化財に関すること

〒029-3105 岩手県一関市花泉町涌津字一ノ町29番地

教育委員会文化財課 課長補佐兼文化財係長 西山

メールアドレス：bunka@city.ichinoseki.iwate.jp

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
1	さいきんどうぐいっしき 採金道具一式	(未指定) 有形民俗文化財	川での砂金採取、柴金の採取、鉱石から金を取り出す際に使われた鉱山臼などの道具類。 近世仙台藩の御本判制度のもとで発展し、近代に入っても砂金採取が行われるなど、人々の生活に“金”が深く関わっていたことを示しています。	岩手県 一関市
2	もくぞうかんのんぼさつざぞう 木造観音菩薩坐像	重要文化財	中尊寺「金色堂」内の仏像の一つと同時代の観音菩薩像。かつて洪民にあった観音寺は三代秀衡公が建立した寺であり、その本尊と伝わります。仏教文化を通じて奥州藤原氏の理想郷が広がっていたことを示す好例と言えます。	岩手県 一関市
3	いしとうば きんぱくお 石塔婆 (金箔押し)	一関市指定有形文化財	仏を金で荘厳する事は、天平勝宝4年(752)奈良東大寺の盧舎那仏の開眼供養に陸奥国の金が大きく寄与したことが知られています。これ以降、仏は金で荘厳されています。 中世期における死者の追善供養を表す板碑は、正面に梵字を用いています。梵字は仏を表しており、金箔で荘厳しています。 建立から数百年の時を経て金箔が残っている事例は少なく、往時の仏教文化の一端を知る貴重なものです。	岩手県 一関市
4	きんざんぶぎょうしよもん 金山奉行所門 (東山南方大肝入 白石家門)	(未指定) 有形文化財	白石十郎左衛門は、御本判大肝入を勤め、文禄3年(1594)に気仙・本吉・東山の堀子が起こした金山一揆において、伊達政宗の嫌疑を晴らす等大きな功績をあげました。後に白石家は、代々「磐井郡東山南方大肝入」を勤め、併せて産金に関わる役職を勤めました。 白石家にある門は「金山奉行所門」との伝えを持ち、当地方の産金史を物語る貴重な建造物として修復・維持され、今に伝えられています。	岩手県 一関市

5	きんざんいたせいごほんばん 金山板製御本判	一関市指定有形文化財	御本判は、文禄三年（1593）に豊臣政権が発行した金堀の鑑札です。重臣浅野長吉（弾正）の家臣、大橋八蔵、鯉江権右衛門、西村左馬之助、の名前が墨書、菊の焼き印が押され、「気仙沼」、「横沢」、「千まや・せんまや」の地名が見られます。豊臣秀吉が全国の金山を一括支配した時期に発行されたもので、御本判と呼ばれます。3,159枚堀子に配布されたと古書に残ります。	岩手県 一関市
6	とうげやまぶしかぐら 峠山伏神楽	一関市指定無形民俗文化財	北上山地の産金地帯にゆかりの深い早池峰神楽の南限。近世末、猿沢村峠地区の金山が隆盛を極めた際、風紀の乱れを憂いた村人が健全な娯楽として山伏の神楽を取り入れたのが始まりとされています。	岩手県 一関市
7	ひでひらぬり 秀衡塗	(未指定) 工芸品	金色堂をはじめとする金の加工・細工技術を今に伝える伝統的工芸品。藤原秀衡が京より職人を招来し、産出した砂金をふんだんに使って豪華絢爛な器を作らせたのが起源とされます。	岩手県 一関市
8	むろねさん 室根山	(未指定) 名勝	室根山（895m）は一関市の東端に位置する独立峰です。近傍の眼下の山々や里は産金の地として古くから知られ、随所に砂金や柴金、山金の採集された鉱山遺跡があり、小河川からは砂金が採集されます。 頂上から南東に目を転じれば気仙沼市街地、大島、唐桑半島や太平洋を一望でき、古来より航路の目印となり元山として漁業者にも親しまれています。また、遠く岩手山、奥羽山脈の山並み栗駒山（1826m）、伊豆沼、近くは東稲山、蓬萊山も眺望できます。 山頂付近には、養老2年（718）熊野の神を勧請した室根神社があります。古代より人々の信仰の厚い霊山で、国指定重要無形民俗文化財「室根神社祭のまつりバ行事」が執り行われ、産金地帯を一望できる神宿る山といえます。	岩手県 一関市

【参考資料】

公表元：文化庁ホームページ：令和８年度「日本遺産(Japan Heritage)」認定内容の変更
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/pdf/94430401_01.pdf

No	認定 年度	都道府県	申請者 (◎は代表自治体)	ストーリー名	変更事由	変更箇所
69	R1	岩手県、宮城県	岩手県（平泉町・陸前高田市・大船渡市・住田町・一関市）◎宮城県（気仙沼市・南三陸町・◎涌谷町・石巻市）	みちのくGOLD浪漫 一黄金の国ジパン、産金はじまりの地をたどるー	申請者 構成文化財	【追加】 岩手県住田町、一関市 【追加】 1-6 気仙川の砂金：未指定（天然記念物）／気仙川では奈良時代から砂金が採取され、奥州藤原氏や藩政時代の仙台藩を支えてきました。1976（昭和51）年には町内から当時日本で3番目に大きい22.4gの砂金が発見されました。現在でも砂金を採取することができ、悠遠な地質史を物語っています。 1-7 室根山：未指定（名勝）／室根山（895m）は一関市の東端に位置する独立峰です。近傍の眼下の山々や里は産金の地として古くから知られ、随所に砂金や紫金、山金の採集された鉱山遺跡があり、小河川からは砂金が採集されます。古来より航路の目印となり元山として漁業者にも親しまれています。山頂付近には、718（養老2）年熊野の神を勧請した室根神社があります。古代より人々の信仰の厚い霊山で、国指定重要無形民俗文化財「室根神社祭のマツリバ行事」が執り行われ、産金地帯を一望できる神宿る山といえます。 2-8 阿弥陀三尊像：県有形（彫刻）／藤原秀衡が、野尻（現在の世田米川向周辺）で金採取する人たちのために阿弥陀堂を建立し贈ったものと伝えられています。御本尊の阿弥陀如来坐像は中尊寺の仏像と酷似しており、奥州藤原氏が産金地を大切にすることを物語ります。 2-9 紺紙金字「大乘大集地藏十輪經卷第二」：町指定（書籍・典籍）／藤原秀衡が中尊寺に奉納した紺紙金字一切經の中の一巻と考えられています。当時の信仰が金によって支えられていたことを理解できるだけでなく、奥州藤原氏が願った「争いのない平和で平等な世」を伺い知ることができる貴重な資料です。 2-10 木造観音菩薩坐像：国重文（彫刻）／中尊寺「金色堂」内の仏像の一つと同時代の観音菩薩像。かつて洪民にあった観音寺は三代秀衡公が建立した寺であり、その本尊と伝わります。奥州藤原氏の理想郷を“金”によって具現したことを示す好例と言えます。 2-11 石塔婆（金箔押し）：市有形（考古資料）／中世期における死者の追善供養を表す板碑は、正面に梵字を用いています。梵字は仏を表しており、金箔で荘厳しています。建立から数百年の時を経て金箔が残っている事例は少なく、漆を使い金箔を貼る金工芸技術を今に伝えていきます。 4-12 野尻金山跡：未指定（史跡）／野尻周辺は、奥州藤原氏の時代から金が採取されていた地域で、戦国時代になって金山として開発されると、全盛期には何千人もの堀子が集まり、鉱山長屋などができて町があったと伝えられています。玉山金山と同じ時代に採掘されていた栄枯盛衰を物語る金山跡の一つです。 4-13 金山奉行所門（東山南方大肝入 白石家門）：未指定（建造物）／白石十郎左衛門は、御本判大肝入を勤め、1594（文祿3）年に気仙・本吉・東山の堀子が起こした金山一揆において、伊達政宗の嫌疑を晴らす等大きな功績をあげました。後に白石家は、代々「磐井郡東山南方大肝入」を勤め、併せて産金に関わる役職を勤めました。白石家にある門は「金山奉行所門」との伝えを持ち、当地方の産金史を物語る貴重な建造物として今に伝えられています。 4-14 金山板製御本判：市有形（歴史資料）／御本判は、1593（文祿3）年に豊臣政権が発行した金堀の鑑札です。重臣浅野長吉（弾正）の家臣、大橋八蔵、鯉江権右衛門、西村左馬之助、の名前が墨書、菊の焼き印が押され、「気仙沼」、「横沢」、「千まや・せんまや」の地名が見られます。豊臣秀吉が全国の金山を一括支配した時期に発行されたもので、御本判と呼ばれます。3,159枚堀子に配布されたと古書に残ります。 5-8 旧菅野家住宅：未指定（建造物）／明治～昭和の豪商の店舗兼住宅。当時は川砂金の買い取りもおこなっていました。1890（明治23）年、世田米大渡で長さ4cm、幅3.5cm、厚さ1.4cm、88gの巨大な金塊を買い取りし、1900（明治33）年のパリ万博に出展したという記録が残っており、金掘りたちの“金”への憧れを今に伝えています。 6-14 大平・梅ノ木念仏剣舞：町指定（無形民俗文化財）／文政年間（1818～30）、磐井郡から小府金山に働きに来ていた踊り師匠によって演じられ、地元へ伝えられたのがはじまりと言われています。金を通じた人々のつながりによって根付いた住田独自の民俗芸能です。 6-15 峠山伏神楽：市無形民俗（無形民俗文化財）／北上山地の産金地帯にゆかりの深い早池峰神楽の南限。近世末、猿沢村峠地区の金山が隆盛を極めた際、村人が健全な娯楽として山伏の神楽を取り入れたのが始まりとされており、“金”と人々の縁によって育まれた芸能の一例です。 【所在地変更】 6-2 採金道具一式：a. 岩手県陸前高田市（陸前高田市立博物館） b. 岩手県住田町（住田町民俗資料館） c. 岩手県一関市（せんまや街角資料館） 6-5 秀衡塗：a. 岩手県平泉町 b. 岩手県一関市